横浜植物会
会報
第264号
Vol.55,No.1
事務局 〒244-0802
横浜市戸塚区平戸5-32-41 渡辺 重彦 方
Fax 045-825-2460 〒振替口座 0280-2-13074
E.mail:yoko.syoku1909@gmail.com
令和6年2月1日(2024)
横浜植物会ホームページ http://yoko-syoku.sakura.ne.jp/（変更しました）

イヌホソエガラシ *Sisymbrium erysimoides* Desf.

会長 勝山輝男

先日、自宅の本の整理をしていたとき、全農教『日本帰化植物友の会通信』最終号(No.16)のイヌホソエガラシ(新称)の記事(植村・歌川, 2017)が目に留まった。イヌホソエガラシ *Sisymbrium erysimoides* Desf. はヨーロッパ原産で北アメリカやオーストラリアに帰化しているアブラナ科キバナハタザオ属の植物で、2005年4月に東京都府中市の多摩川河川敷で採集され、植村・歌川（2017）が日本新産の帰化植物として報告した。植村・歌川（2017）は府中市のほか、川崎市中原区の多摩川、東京都江東区、大阪市住吉区でも見つかったことを報告している。まだ、報告の少ない帰化植物で、川崎市中原区の多摩川が挙げられているが、『神奈川県植物誌 2018』では取り上げられていない。

イヌホソエガラシはホソエガラシの貧弱なものに見えるが、長角果の柄は"細柄"ではなく、果時に長さ 2～4 mm(ホソエガラシでは長さ 6～10 mm)と短いという。植村・歌川(2017)が識別点とした、果柄が"細柄"にならず長さ 2～4 mm であること、根生葉が顕著なロゼットにならないこと、果実が開出してつくことを目安に、生命の星・地球博物館のホソエガラシとイヌカキネガラシの標本を調べてみた。1996 年の横浜市都筑区(KPM-NA0101963)と2011年の三重県四日市市(KPM-NA0203541)の 2 点の標本が該当した。これら 2 点の標本について、Flora Europae(Ball, 1993)と Flora of North America(Ihsan, 2010)の検索表や記載文で確認したところ、2点とも *S. erysimoides* で間違いないと判断された。果柄の上側(向軸側)に縮れた毛が密生していることも良い識別点になりそうだ。

以下、採集された標本に基づく形態を記した。

イヌホソエガラシ *Sisymbrium erysimoides* Desf.

1年草または越年草。高さ 10～20 cm、茎や葉は全体に無毛または疎らに毛がある。根生葉はロゼット状に発達せず茎葉よりも少し短い。茎葉は長さ3～7cm、羽状に片側2～4片に深裂し、頂裂片は側裂片よりもやや大きい。花は黄色、萼片は長さ約 2 mm、花弁は萼片よりも少し長い。花柄は花時に長さ 1～2 mm、果時に長さ 4 mm 以下、果実本体と同幅または少し細い程度で、上側(向軸側)に縮毛が生える。長角果は長さ 2～3 cm、花序軸に対して開出してつく。

KPM 所蔵のイヌホソエガラシ標本

神奈川県: 横浜市都筑区牛久保1丁目 1996.04.06 吉川アサ子 KPM-NA0101963; **三重県:** 四日市四日市港 2011.03.20 松本雅人 KPM-NA0203541.

文 献

Ihsan A. Al-Shehbaz, 2010. Brassicaceae-Sisymbrium. in Flora of North America Editorial Committee ed., Flora of North America, North Mexico, Vol.7, pp.667-671. Oxford University Press, New York.

Ball P. W., 1993. Cruciferae-Sisymbrium. in Tutin et al., Flora Europaea Vol.1, 2'ed. pp.318-321. Cambridge University Press, London.

植村修二・歌川道子, 2017. イヌホソエガラシ（新称）とホソエガラシ. 全農教 日本帰化植物友の会通信, (16): 1-3.

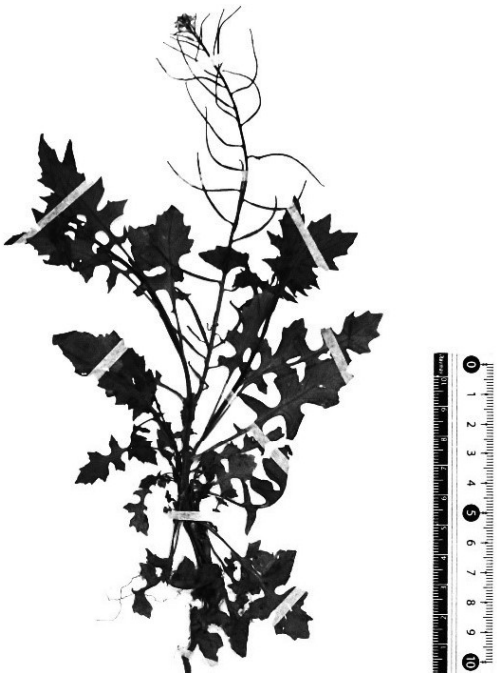

図 三重県産のイヌホソエガラシ標本
(KPM-NA0203541)